

# 事業報告書(案)

2019年度

自 2019年4月 1日

至 2020年3月31日

一般社団法人 **経済倶楽部**

東京都中央区日本橋本石町一丁目2番1号



## 2019 年度事業報告書

一般社団法人経済倶楽部では、2019 年度(2019 年 4 月～2020 年 3 月)において、主たる活動である定例講演会を 42 回(前年度 43 回)開催しました。

定例講演会におきましては、引き続き第一級の講師の方々をお招きして、経済を中心に政治や国際関係の諸問題、さらにニーズの高い医療関連や歴史、教育などその時々的重要テーマについてご講演頂きました。今年度は新型コロナウイルス禍に伴う感染を避ける意味から、3 月と次年度の 4 月の講演会を中止しました。ただし、『経済倶楽部講演録』については引き続き刊行する必要があるとの判断から、3 月、4 月分については講師に方に来ていただき、会議室での座談を収録することとしました。

講演をテーマ別に見ますと、日本経済・財政・金融・証券市場など 11(前年度 13)、国内政治 9(同 6)、海外経済・国際情勢 12(同 16)、医療・科学関連 3(同 4)、その他 7(同 4)となっています(具体的な講師名、講演タイトルは 8、9 ページをご覧ください)。

今年度の講演についてですが、経済については日本国内では金融政策面では大きな変更がみられませんでした。日本銀行は引き続き 2%のインフレ率目標を掲げて、緩和的な政策スタンスを維持しました。そんななかで金融政策の限界に関する講演や低下が続く潜在成長率の引き上げに関する講演が目を引きました。特に野口悠紀雄・一橋大学名誉教授は日本の潜在成長率低下の背景を分析。そこで中小企業の生産性の低さに焦点をあて、その理由として資本装備率や無形資産の低さを指摘され、この点を早急に解決する必要があるとされました。一方、政治では安倍政権の長期政権化もあり、前年の森友・加計学園問題さながら「桜を見る会」の私物化に対する疑念が野党の批判を浴びるなど、メディアの報道が続きました。こうしたことから講演でも安倍政権の問題点を指摘するものが多くなり、特に東京新聞社会部記者の望月衣塑子氏や毎日新聞社特別報道部記者の大場弘行氏の講演は聞き応えがありました。次に毎年講演回数が多い海外動向では、米中関係が貿易摩擦から覇権争いの様相を呈してきたこともあり、米国や中国の経済動向に関する講演が注目されました。併せてトランプ大統領が再選を狙う 2020 年の米国大統領選挙の動向にも関心が高まりつつありました。ところが、2020 年の年が明けると突如、中国の武漢から起こった新型コロナウイルス禍が、全世界に広がり一気にパンデミック化。そのため、

この問題の影響度についてすべての講師が講演冒頭で触れるという状況になりました。一方、最近会員の関心が高い科学・医療関連では気象、医療、地震について講演をお願いしました、気象については東京大学大気海洋研究所の本本昌秀氏に講演を頂きました。講演ではまず、異常気象との表現について、異常気象となると頻度が非常に少なく、対策が取られなくなるので、異常気象とは言わず、極端気象と表現していると話されました。その他のテーマでは歴史問題で作家の原田伊織氏に明治維新の新しい見方をお話いただきました。他にも、人口問題から 2020 年代の日本と世界を見通す内容で話された藻谷浩介氏。今回経済倶楽部へは初登壇となったジャーナリストの田原総一郎氏、地域再生問題で元鳥取県知事の片山善博・早稲田大学大学院教授や京都にある正覚寺副住職の鶴飼秀徳氏の講演もそれぞれ内容のある興味深い指摘をされました。

講演は 42 回とも『経済倶楽部講演録』に収録し、当倶楽部を含め全国で 12 カ所ある経済倶楽部会員に毎月 1500 部を計 12 回お届けしました。

毎年度行っているアジア平和貢献センター（西原春夫理事長）との共催講演会、シンポジウムですが、今年度はシンポジウムを行わず、講演会のみとしました。共催講演会は 3 月 13 日に青山瑠妙・早稲田大学大学院教授に、「変容する国際秩序・転機を迎えた中国の外交」と題しまして講演して頂きました。

「事業所見学会」は今回も春、秋の 2 回実施しました。春は 6 月 19 日（水）に東京都八王子市にある日本水産の T I C（東京イノベーションセンター）と総合工場を見学しました。T I C は 2011 年に開設された同社の最新の研究開発拠点で、最新の商品開発動向や養殖事業について研究所長からお話を伺いました。今回の参加者は 24 名（前年度 25 名）でした。また、秋は 12 月 4 日（水）に開催。日野市にあるトッパンメディアプリンテック日野工場を見学し、朝日新聞本社から送られてくるデータをもとに刷版作成から新聞が印刷される工程までの説明を受け、その後見学しました。今回は途中、多摩市にある長谷工マンションミュージアムにも立ち寄りました。ここではマンションの歴史や設計、施工、構造や修繕の最新事情を見学しました。今回の参加者は 19 名（前年度 18 名）でした。

会員同士の勉強会である「経済金融懇話会」は毎月 1 回開催されており、毎回、経済・金融・証券・政治などのタイムリーな問題をめぐって活発な討論が行われ、毎回 10 名前後の参加者があります。当年度は新型コロナウイルス感染予防対策もあり 3 月の講演会を中止したことから 2 月が年度末となりました。第 173

回目となる2月28日の討論テーマは「新型コロナウイルスと企業経営」でした。

一方、平成22年6月から行われている「物申す会」は月1回第3金曜日を原則に開催しています。こちらでも2月21日の第118回が年度末最後で、テーマは『「英語教育」は国を滅ぼすか』でした。

これらに加え、毎週、講演会終演後に同じ会場で映画鑑賞会を開催しています。毎月特集テーマを決めて内外の映画を上映してきました。昨年11月まで日本の監督特集を続け、12月からは欧米の名作映画特集にしています。

恒例の「銷夏パーティー」は7月19日（金）15時～17時20分まで、笹川平和財団上席研究員の渡部恒雄氏による「トランプ外交を読み解く」と題した講演の後に続いて行いました。参加は講師4名、理事3名、会員26名を含め、総数40名の方々にご参加をいただきました。参加講師によるミニ・スピーチはノンフィクション作家の塩田潮氏、武者リサーチ代表の武者陵司氏でした。パーティー後半の音楽タイムでは、日本フィルのソロコンサートマスター、木野雅之様の演奏でパガニーニの奇想曲第13番などをご堪能いただきました。

また、冬の「忘年パーティー」も12月13日（金）15時～17時20分の時間で、嶋中雄二・三菱UFJモルガン・スタンレー証券景気循環研究所長の「2020年日本経済の展望」の講演に続き開催しました。参加は講師6名、理事8名、会員19名はじめ総数41名の方々でした。恒例のミニ・スピーチはノンフィクション作家の塩田潮氏、作家の原田伊織氏に行ってくださいました。ミニ・スピーチの後には各所で和やかなご飲食とご歓談で盛り上がりました。パーティー後半の音楽タイムは恒例となっております日本フィルのミニ演奏会でした。今回はクラリネット奏者、楠木慶様の演奏でドビュッシー「亜麻色の髪の乙女」などをご堪能いただきました。

「新会員懇親会」は10月に開催しました。午後のひとときのささやかな茶話会ですが、新会員の自己紹介を中心に親睦を深めることができました。

また、既存会員との懇親の場である「会員誕生日会」は10回開催しました。前年度10月から参加会員の利便性を考え、定例講演会後に開催するとともに、参加者も当月誕生者に限定しました。そのため、毎月の開催となっています。

親睦ゴルフ「青空会」は10月2日、昨年に引き続き神奈川県相模原ゴルフクラブで行いました。今回は東コースで開催。汗ばむような好天に恵まれ、楽しい1日を過ごすことができました。参加者は2組8名でした。

平成29年度の会員状況、収支状況をご説明いたします。まず2019年度末の

会員総数は471名と前年度末の502名から31名の減少となりました。当年度内の入会者は個人14名、退会者は個人45名、法人（法人会員の名義書換を除きます）、その他に変更はありませんでした。会員増加策は年来の課題ですが、引き続き既存会員の紹介が中心ですが、ご紹介いただきました既存会員の方には感謝申し上げます。

次に当年度収支についてご報告致します。会費収入は4231万円で予算比168万円の減少となりました。これは会員数の減少が想定を上回ったことが影響しています。この点は入会金収入も同様で、予算比45万円の減少でした。会議室使用料収入については、414万円で予算比49万円の増収になりました。増収理由は①2020年公開予定の映画『罪の声』にホール、会議室を貸し出しこと。②東洋経済新報社のご要望で、3月の間、パート従業員のため昼食時間に談話室を一部貸し出したことによるものです。事務手数料収入につきましては851万円でほぼ予算並みでしたが、前年度比では71万円の増収になりました。これは2019年10月以降、中部経済倶楽部の業務効率化に伴い、事務を引き継いだ事務受託料収入が6か月分上乘せされたためです。食堂売上は72万円で、予算比22万円の減少。これは3月の講演会が新型コロナウイルス感染対応で中止されたため、その分、お弁当売り上げが想定を下回ったことによるものです。これらの結果、総収入は5619万円で、予算比184万円の減少となっています。

一方、支出面では、まず東洋経済新報社への賃借料が主体の会館費は1824万円で予算比43万円減少しました。理由はこれもコロナ感染対応で3月の講演会が中止されたことが影響しています。集会費は937万円で、講師費用の若干の増加もあり予算比8万円の増加。講演集費は220万円で予算費31万円の減でしたが、これは予算がやや過大だったためです。また、食堂経費が予算比53万円の減少の249万円になっていますが、これも講演会中止に伴う配膳等の人件費の減少によるものです。その他はいずれもほぼ予算並みでした。この結果、事業活動支出は5257万円で予算比182万円の減少となり、当年度の収支差額は362万円のプラス（前年度は550万円のプラス）となりました。

## 2020年度事業計画

新年度の予算につきましては、会費収入は3997万円で前年度実績比では234万円の減少を見込んでいます。これは総会員数の緩やかな減少が続くと想定しているためです。一方、入会金収入は新規入会者を年間12名として前年度並

みを確保するとみております。また、会議室使用料収入は320万円で、前年度比94万円の減少をみています。これは新型コロナウイルスの影響により4月、5月のホール、会議室の貸出が落ち込むことを織り込んだものです。一方、事務手数料収入は前年度比では77万円の増加を見込んでいます。理由は中部経済倶楽部の事務受託料がフルに寄与するためです。この結果、総収入は5365万円で、これは前年度予算比438万円の減少になります。

一方、支出面ではメインの会館費が4月の定例講演会中止の影響で、ホール利用代金が減少しほぼ前年並みの1824万円を想定しています。また、集会費では4月講演会中止に伴う講師1名の減少や事業所見学会などの追加費用の通常化を想定し888万円とみています。これは前年度実績比で50万円ほどの減少となります。また、新年度では2年置きに作成しております会員名簿費を23万円見込んでいます。その他の費用項目はいずれもほぼ前年並みで推移するものと想定し、支出合計は5254万円を見込んでいます。この結果、2020年度の収支差額は110万円のプラスを想定しています。

新年度も経済倶楽部運営のポイントは、新型コロナウイルス禍の影響長期化などを見定め、ネットによる動画配信方式等の研究をしつつ定例講演会の充実に注力してゆきます。定例講演会につきましては、メインである経済や政治、国際問題に加え、可能な限り、月に1回は新規講師を開拓してゆく方針です。一昨年、名簿改訂に合わせて会員の皆様にアンケートをさせていただきましたが、今年度もアンケートにより会員の皆様のご希望講師やテーマ、さらには倶楽部運営に関するご意見、ご要望をお聞きする予定です。

一方、新会員増加策につきましては『週刊東洋経済』や『月刊監査役』への広告出稿のほか、引き続き東洋経済新報社とはインターネット活用などを模索しながら連携を深めて行く方針です。既存会員からのご紹介につきましては、評議員の方々を始め、過去にご紹介実績のある方だけでなく、会員の方々に広くお声掛けして行く方針です。

ホールや会議室の貸室事業につきましては、東洋経済新報社や既存のお得意様への貸し出しに加え、ケータリング方式の定着してきた懇親会や各種会合などにも注力して参ります。

会員の皆様におかれましては、引き続き経済倶楽部へのこれまでと変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# 庶務の概況

## 定時会員総会

2019年5月27日午前11時より経済倶楽部ホールにおいて定時会員総会を開催、下記案件を付議しました。

報告事項      2018年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）  
事業報告の件

### 決議事項

- 第1号議案      2018年度貸借対照表、財産目録、収支計算書承認の件
- 第2号議案      2019年度収支予算案及び事業計画案承認の件
- 第3号議案      任期満了に伴う理事、監事選任の件

上記はいずれも原案通り承認可決されました。

## 理事会

2019年      4月22日      5月27日      7月29日      10月28日  
2020年      1月27日      以上5回開催いたしました。

## 評議員会

2020年      3月10日      以上1回開催いたしました。

## 見学会 懇親会 研究会

事業所見学会	6月19日	日本水産 TIC、八王子総合工場 武蔵野陵
	12月4日	トッパンメディアプリンテック日野工場 長谷工マンションミュージアム
青空会(ゴルフ親睦会)	10月2日	相模原ゴルフクラブ
銷夏パーティ	7月20日	

忘年パーティ	12月13日
新会員懇親会	10月11日
会員誕生日会	4月5日 5月31日 6月7日 7月5日 9月6日 10月4日 11月1日 12月6日 1月31日 2月7日
映画観賞会	毎週開催(講演会終了後)
経済金融懇話会	8回開催(月1回開催)
物申す会	10回開催(月1回開催)

## 『経済倶楽部講演録』

2019年4月号より2020年3月号まで12集頒布いたしました。

## 会員異動状況

年 度 初	502 名
入 会 者 数	14 名
退 会 者 数	45 名
年 度 末	471 名

\*入退会者数は法人会員の名義変更を除きます

## 会員構成内訳

法 人 会 員	105 名
個 人 会 員	366 名
合 計	471 名

## 貸室利用状況

ホ ー ル	119 回
第 1 会 議 室	113 回
第 2 会 議 室	4 回
第 3 会 議 室	96 回
総 数	332 回

## 一般社団法人経済倶楽部 2019 年度定例講演会

講 師 (敬称略)	講演時の肩書	演 題
4/5 田中 秀征	福山大学客員教授	平成を振り返って
4/12 下斗米 伸夫	神奈川大学特別招聘教授	日中関係：歴史と現代
4/19 熊野 英生	第一生命経済研究所首席エコノミスト	生産性上昇をどう実現するか？ ～マクロとミクロの視点～
4/26 三浦 瑠麗	国際政治学者	21 世紀の戦争と平和
5/10 藻谷 浩介	日本総合研究所首席研究員	人口成熟で激変する日本、東アジア、世界の 2020 年代 副題：壊滅するのは過疎地なのか、それとも大都市圏か？
5/17 酒井 啓子	千葉大学法政経学部教授	中東新冷戦を読み解く
5/24 山田 恵資	時事通信社解説委員長	政治の現状と日本の行方
5/31 白井 さゆり	慶應義塾大学教授	グローバル経済の構造変化と見通し ～令和時代以降の日本経済金融情勢～
6/7 木本 昌秀	東京大学大気海洋研究所教授	極端気象・異常気象と地球温暖化
6/14 小峰 隆夫	大正大学地域創生学部教授	平成経済の回顧と令和経済の課題
6/21 塩田 潮	ノンフィクション作家、評論家	参院選と今年後半の政治を読む
6/28 吉崎 達彦	双日総研チーフエコノミスト	米中関係の行方と日本の選択
7/5 伊藤 元重	学習院大学国際社会科学部教授	低金利下の経済運営について
7/12 小林 弘幸	順天堂大学医学部教授	長生きのための栄養学
7/19 渡部 恒雄	笹川平和財団上席研究員	トランプ外交を読み解くー中国・イラン・北朝鮮・日米通商協議
9/6 豊島 逸夫	国際金融マーケット研究家	2019 年市場が発する異音
9/13 曾我 豪	朝日新聞政治部編集委員	2019 参院選の面白さを新聞は伝え切れたか
9/20 長尾 年恭	東海大学教授兼海洋研究所長	南海トラフ巨大地震と対応策の課題
9/27 大庭 三枝	東京理科大学教授	米中対立と ASEAN：「漁夫の利」か「統合の溶解」か
10/4 柯 隆	東京財団政策研究所首席研究員	高まる東アジアの地政学リスクー米中対立、日韓対立、香港デモの行方

10/11	辺 真一	コリアレポート編集長	日韓対立の原因と今後
10/18	望月 衣塑子	東京新聞社会部記者	民主主義とは何か～安倍政権とメディア
10/25	福田 耕治	早稲田大学政経学部教授	英国 EU 離脱延期問題と EU 統合の行方
11/1	田原 総一郎	ジャーナリスト	時代をよむ
11/8	小泉 悠	東京大学先端科学技術研究所特任助教	2024 年のロシアを見通す
11/15	加藤 出	東短リサーチ社長	金融緩和競争再燃の行方 & 海外最新キャッシュレス動向
11/22	飯尾 潤	政策研究大学院大学教授	『『有権者は神様です』で民主政は機能するか』
11/29	中岡 望	東洋英和女学院大学客員教授	2020 年波乱含みの米国大統領選をどう見るか
12/6	河野 龍太郎	BNPパリバ証券チーフエコノミスト	グローバル経済の早期回復はあるか
12/13	嶋中 雄二	三菱UFJモルガン・スタンレー証券景気循環研究所長	2020 年日本経済の展望
12/20	寺島 実郎	(一財)日本総合研究所会長	2020 年への視座—世界経済の構造変化と日本の進路
1/10	藤原 帰一	東京大学大学院教授	潮流 2020 動乱の世界
1/17	柿崎 明二	共同通信社論説委員	独裁とねじれ
1/24	高橋 洋一	嘉悦大学教授	2020 年の日本経済をよむ
1/31	鷓飼 秀徳	浄土宗正覚寺副住職	寺院を活かせば地方は蘇る～消えゆく”社会資本”の現状と課題
2/7	野口 悠紀雄	一橋大学名誉教授	日本経済のゆくえ
2/14	原田 伊織	作家	軍国日本を創った明治維新
2/21	大場 弘行	毎日新聞社特別報道部記者	日本を覆う公文書クライシス～隠べいの実態とその背景
2/28	片山 善博	早稲田大学大学院教授	地方自治のガバナンスを問う
3/6	市川 真一	ピクテ投信投資顧問シニア・フェロー	政治の季節となる 2020 年度 経済へのインパクト
3/13	青山 瑠妙	早稲田大学大学院教授	変容する国際秩序・転機を迎えた中国の外交
3/27	山田 孝男	毎日新聞社特別編集委員	ワード・ポリティクス/コラムニストが考える、これからの日本

(第2号議案添付書類)

## 2020年度 事業計画案

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. 定例講演会          | 毎週金曜日 |
| 2. 臨時講演会、シンポジウム   | 随時    |
| 3. 経済金融懇話会（会員勉強会） | 月1回   |
| 4. 株式投資研究会        | 休会中   |
| 5. 物申す会（会員勉強会）    | 月1回   |
| 6. 映画観賞会          | 毎週金曜日 |
| 7. 事業所見学会         | 年2回以上 |
| 8. 近隣ミニ見学会        | 随時    |
| 9. 講師・会員親睦パーティ    | 年2回以上 |
| 10. 青空会（ゴルフ親睦会）   | 年1回以上 |
| 11. 新会員懇談会        | 随時    |
| 12. 会員誕生日会        | 毎月1回  |
| 13. 『経済倶楽部講演録』発行  | 年12回  |
| 14. ホームページ更新      | 随時    |

(第1号、第2号議案添付書類)

## 収支予算書及び財務諸表等

2019年度

様式1 収支予算書

様式2 収支計算書

様式3 貸借対照表

様式4 正味財産増減計算書

様式5 財務諸表に対する注記

様式6 附属明細書

様式 1

## 収 支 予 算 書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	差異 (a)-(b)	備考
<b>I 事業活動収支の部</b>				
<b>1. 事業活動収入</b>				
① 入 会 金 収 入	420,000	840,000	△ 420,000	
② 会 費 収 入	39,978,000	44,000,000	△ 4,022,000	
③ 会 議 室 使 用 料 収 入	3,200,000	3,650,000	△ 450,000	
④ 事 務 手 数 料 収 入	9,283,200	8,500,000	783,200	
⑤ 雑 収 入				
受 取 利 息	0	0	0	
雑 収 入	100,000	100,000	0	
⑥ 食 堂 売 上 収 入	675,000	950,000	△ 275,000	
<b>事業活動収入計</b>	<b>53,656,200</b>	<b>58,040,000</b>	<b>△ 4,383,800</b>	
<b>2. 事業活動支出</b>				
① 事 業 費 支 出				
会 館 費 支 出	16,600,675	17,003,350	△ 402,675	
集 会 費 支 出	8,889,560	9,292,000	△ 402,440	
講 演 集 費 支 出	2,400,000	2,525,000	△ 125,000	
会 員 名 簿 費 支 出	230,000	15,400	214,600	
消 耗 備 品 費 支 出	125,100	121,200	3,900	
給 料 手 当 支 出	7,411,560	7,384,000	27,560	
厚 生 福 利 費 支 出	1,080,560	1,102,920	△ 22,360	
旅 費 交 通 費 支 出	551,000	585,800	△ 34,800	
会 議 費 支 出	104,000	105,040	△ 1,040	
函 書 雑 誌 費 支 出	380,000	393,900	△ 13,900	
修 繕 費 支 出	0	90,900	△ 90,900	
会 員 募 集 費 支 出	350,000	505,000	△ 155,000	
食 堂 経 費 支 出	2,280,000	3,030,000	△ 750,000	
<b>事業費支出合計</b>	<b>40,402,455</b>	<b>42,154,510</b>	<b>△ 1,752,055</b>	
② 管 理 費 支 出				
会 館 費 支 出	1,641,825	1,681,650	△ 39,825	
消 耗 備 品 費 支 出	125,100	121,200	3,900	
印 刷 費 支 出	60,000	150,000	△ 90,000	
通 信 費 支 出	25,000	30,300	△ 5,300	
給 料 手 当 支 出	6,841,440	6,816,000	25,440	
厚 生 福 利 費 支 出	997,440	1,018,080	△ 20,640	
旅 費 交 通 費 支 出	399,000	424,200	△ 25,200	
会 議 費 支 出	96,000	96,960	△ 960	

修繕費支出	0	10,100	△ 10,100	
租税公課支出	500,000	500,000	0	
交際費支出	80,000	80,000	0	
雑費支出	1,380,000	1,313,000	67,000	
<b>管理費支出合計</b>	<b>12,145,805</b>	<b>12,241,490</b>	<b>△ 95,685</b>	
<b>事業活動支出計</b>	<b>52,548,260</b>	<b>54,396,000</b>	<b>△ 1,847,740</b>	
<b>事業活動収支差額</b>	<b>1,107,940</b>	<b>3,644,000</b>	<b>△ 2,536,060</b>	
<b>Ⅱ 投資活動収支の部</b>				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
<b>当期収支差額</b>	<b>1,107,940</b>	<b>3,644,000</b>	<b>△ 2,536,060</b>	
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>15,430,672</b>	<b>11,806,930</b>	<b>3,623,742</b>	
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>16,538,612</b>	<b>15,450,930</b>	<b>1,087,682</b>	

## 収 支 計 算 書

2019年4月1日から2020年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額(a)	決算額(b)	差異(a)-(b)	備考
<b>I 事業活動収支の部</b>				
<b>1. 事業活動収入</b>				
① 入 会 金 収 入	840,000	390,000	450,000	
② 会 費 収 入	44,000,000	42,311,000	1,689,000	
③ 会 議 室 使 用 料 収 入	3,650,000	4,146,494	△ 496,494	
④ 事 務 手 数 料 収 入	8,500,000	8,511,743	△ 11,743	
⑤ 雑 収 入				
受 取 利 息	0	50	△ 50	
雑 収 入	100,000	108,410	△ 8,410	
⑥ 食 堂 売 上 収 入	950,000	728,800	221,200	
<b>事業活動収入計</b>	<b>58,040,000</b>	<b>56,196,497</b>	<b>1,843,503</b>	
<b>2. 事業活動支出</b>				
① 事 業 費 支 出				
会 館 費 支 出	17,003,350	16,603,400	399,950	
集 会 費 支 出	9,292,000	9,377,238	△ 85,238	
講 演 集 費 支 出	2,525,000	2,209,748	315,252	
会 員 名 簿 費 支 出	15,400	15,400	0	
消 耗 備 品 費 支 出	121,200	119,320	1,880	
給 料 手 当 支 出	7,384,000	7,372,490	11,510	
厚 生 福 利 費 支 出	1,102,920	1,052,621	50,299	
旅 費 交 通 費 支 出	585,800	579,324	6,476	
会 議 費 支 出	105,040	88,605	16,435	
函 書 雑 誌 費 支 出	393,900	369,404	24,496	
修 繕 費 支 出	90,900	0	90,900	
会 員 募 集 費 支 出	505,000	335,120	169,880	
食 堂 経 費 支 出	3,030,000	2,497,562	532,438	
<b>事業費支出合計</b>	<b>42,154,510</b>	<b>40,620,232</b>	<b>1,534,278</b>	
② 管 理 費 支 出				
会 館 費 支 出	1,681,650	1,642,095	39,555	
消 耗 備 品 費 支 出	121,200	119,320	1,880	
印 刷 費 支 出	150,000	2,112	147,888	
通 信 費 支 出	30,300	21,094	9,206	
給 料 手 当 支 出	6,816,000	6,805,376	10,624	
厚 生 福 利 費 支 出	1,018,080	971,652	46,428	
旅 費 交 通 費 支 出	424,200	419,512	4,688	

会議費支出	96,960	81,790	15,170
修繕費支出	10,100	0	10,100
租税公課支出	500,000	526,700	△ 26,700
交際費支出	80,000	25,300	54,700
雑費支出	1,313,000	1,337,572	△ 24,572
<b>管理費支出合計</b>	<b>12,241,490</b>	<b>11,952,523</b>	<b>288,967</b>
<b>事業活動支出計</b>	<b>54,396,000</b>	<b>52,572,755</b>	<b>1,823,245</b>
<b>事業活動収支差額</b>	<b>3,644,000</b>	<b>3,623,742</b>	<b>20,258</b>
<b>Ⅱ 投資活動収支の部</b>			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
<b>当期収支差額</b>	<b>3,644,000</b>	<b>3,623,742</b>	<b>20,258</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>11,806,930</b>	<b>11,806,930</b>	<b>0</b>
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>15,450,930</b>	<b>15,430,672</b>	<b>20,258</b>

#### 収支計算書に関する注記

##### 1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収会費、未収入金、仮払金、未払金、前受金、預り金及び仮受金を含めております。

##### 2. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりであります。

(単位:円)

	前期末残高	当期末残高
現金預金	20,711,862	21,974,822
未収会費	140,000	144,000
未収入金	1,154,622	901,043
仮払金	73,620	148,174
合計	22,080,104	23,168,039
未払金	516,780	130,602
前受金	8,812,430	7,022,120
預り金	555,975	175,822
仮受金	387,989	408,823
合計	10,273,174	7,737,367
次期繰越収支差額	11,806,930	15,430,672

## 貸借対照表

2020年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	21,974,822	20,711,862	1,262,960
未収会費	144,000	140,000	4,000
未収入金	901,043	1,154,622	△ 253,579
仮払金	148,174	73,620	74,554
<b>流動資産合計</b>	<b>23,168,039</b>	<b>22,080,104</b>	<b>1,087,935</b>
<b>2. 固定資産</b>			
<b>(1) その他の固定資産</b>			
建物附属設備	429,942	535,400	△ 105,458
什器備品	467,688	669,300	△ 201,612
電話加入権	83,100	83,100	0
長期前払費用	0	9,534	△ 9,534
<b>その他の固定資産合計</b>	<b>980,730</b>	<b>1,297,334</b>	<b>△ 316,604</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>980,730</b>	<b>1,297,334</b>	<b>△ 316,604</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>24,148,769</b>	<b>23,377,438</b>	<b>771,331</b>
<b>II 負債の部</b>			
<b>(1) 流動負債</b>			
未払金	130,602	516,780	△ 386,178
前受金	7,022,120	8,812,430	△ 1,790,310
預り金	175,822	555,975	△ 380,153
仮受金	408,823	387,989	20,834
<b>流動負債合計</b>	<b>7,737,367</b>	<b>10,273,174</b>	<b>△ 2,535,807</b>
<b>(2) 固定負債</b>			
退職給付引当金	1,912,866	1,908,330	4,536
<b>固定負債合計</b>	<b>1,912,866</b>	<b>1,908,330</b>	<b>4,536</b>
<b>負 債 合 計</b>	<b>9,650,233</b>	<b>12,181,504</b>	<b>△ 2,531,271</b>
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 指定正味財産</b>	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )
<b>2. 一般正味財産</b>	14,498,536	11,195,934	3,302,602
(うち基本財産への充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )
<b>正 味 財 産 合 計</b>	<b>14,498,536</b>	<b>11,195,934</b>	<b>3,302,602</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>24,148,769</b>	<b>23,377,438</b>	<b>771,331</b>

**正味財産増減計算書**  
2019年4月1日から2020年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
① 入 会 金 収 入	390,000	570,000	△ 180,000
② 会 費 収 入	42,311,000	45,276,000	△ 2,965,000
③ 会 議 室 使 用 料 収 入	4,146,494	3,615,985	530,509
④ 事 務 手 数 料 収 入	8,511,743	7,799,598	712,145
⑤ 雑 収 入			
受 取 利 息	50	51	△ 1
雑 収 入	108,410	106,127	2,283
⑥ 食 堂 売 上 収 入	728,800	949,950	△ 221,150
<b>経常収益計</b>	56,196,497	58,317,711	△ 2,121,214
<b>(2) 経常費用</b>			
<b>① 事業費</b>			
会 館 費	16,612,076	16,686,012	△ 73,936
集 会 費	9,377,238	8,912,019	465,219
講 演 集 費	2,209,748	2,392,904	△ 183,156
会 員 名 簿 費	15,400	228,906	△ 213,506
消 耗 備 品 費	119,320	116,525	2,795
給 料 手 当 費	7,372,490	7,265,624	106,866
退 職 給 付 費 用	2,358	0	2,358
厚 生 福 利 費	1,052,621	1,053,338	△ 717
旅 費 交 通 費	579,324	589,928	△ 10,604
会 議 費	88,605	95,049	△ 6,444
函 書 雜 誌 費	369,404	387,652	△ 18,248
会 員 募 集 費	335,120	402,265	△ 67,145
減 価 償 却 費	194,694	239,548	△ 44,854
食 堂 経 費	2,497,562	2,896,441	△ 398,879
<b>事業費合計</b>	40,825,960	41,266,211	△ 440,251
<b>② 管理費</b>			
会 館 費	1,642,953	1,650,265	△ 7,312
消 耗 備 品 費	119,320	116,525	2,795
印 刷 費	2,112	83,808	△ 81,696
通 信 費	21,094	21,924	△ 830
給 料 手 当 費	6,805,376	6,706,730	98,646
退 職 給 付 費 用	2,178	0	2,178
厚 生 福 利 費	971,652	972,312	△ 660
旅 費 交 通 費	419,512	427,190	△ 7,678
会 議 費	81,790	87,739	△ 5,949

租 税 公 課	526,700	265,200	261,500
交 際 費	25,300	55,742	△ 30,442
雑 費	1,337,572	1,377,656	△ 40,084
減 価 償 却 費	112,376	142,491	△ 30,115
<b>管理費合計</b>	<b>12,067,935</b>	<b>11,907,582</b>	<b>160,353</b>
<b>經常費用合計</b>	<b>52,893,895</b>	<b>53,173,793</b>	<b>△ 279,898</b>
<b>当期經常増減額</b>	<b>3,302,602</b>	<b>5,143,918</b>	<b>△ 1,841,316</b>
<b>2. 經常増減の部</b>			
<b>(1) 經常外収益</b>			
<b>經常外収益合計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>(2) 經常外費用</b>			
固 定 資 産 除 却 損	0	197,505	△ 197,505
<b>經常外費用合計</b>	<b>0</b>	<b>197,505</b>	<b>△ 197,505</b>
<b>当期經常外増減額</b>	<b>0</b>	<b>△ 197,505</b>	<b>197,505</b>
当期一般正味財産増減額	3,302,602	4,946,413	△ 1,643,811
一般正味財産期首残高	11,195,934	6,249,521	4,946,413
<b>一般正味財産期末残高</b>	<b>14,498,536</b>	<b>11,195,934</b>	<b>3,302,602</b>
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>14,498,536</b>	<b>11,195,934</b>	<b>3,302,602</b>

様式5

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

定額法によっております。

(2) 引当金の計上基準

退職給付引当金は、役員に支給する退職金の期末要支給額から独立行政法人勤労者退職金共済機構中小企業退職金共済事業本部に積み立てている年金資産残高を控除した金額を計上しております。

(3) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっています。

2. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりであります。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	9,210,495	8,780,553	429,942
什器備品	7,655,123	7,187,435	467,688
合計	16,865,618	15,967,988	897,630

様式6

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

該当事項はありません。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	1,908,330	4,536	0	0	1,912,866

(第3号議案添付書類)

任期満了に伴う監事選任の件

2020年5月25日をもって監事1名が任期満了となります。定款13条に基づき、以下の監事の選任をお願い致したく、ご提議申し上げます。

重任監事は以下の通りです。

高橋 宏 (元東洋経済新報社会長)

# 監査報告書

2020年4月20日

一般社団法人 経済倶楽部  
理事長 柴生田 晴四 殿

監事 岡本 和也  
監事 高橋 宏

私どもは、以下に掲げられております一般社団法人経済倶楽部の2019年4月1日より2020年3月31日までの2019年度計算書類、すなわち、収支計算書、貸借対照表および正味財産増減計算書について会計監査等民法第59条に定められた監査を行いましたので、次のとおりご報告いたします。

## 記

会計監査のため、帳簿、伝票等を閲覧し、計算書類について慎重な検討を加え、必要と思われる実査、照合等の監査手続を行いました。

その結果、計算書類は会計帳簿と合致し、一般社団法人経済倶楽部の財産および収支の状況を適正に示しており、また、理事の業務執行は適正に行われていると認めます。

以上

